

マスター検索表示区分って何だろう？

サンプルアプリのマスタータイプの画面にマスター検索表示区分という項目があるよね。補助マスターの画面にも同じ項目があるけど、どんな時に使うのかな。

不要になったマスターデータをマスター検索では表示したくないけど、過去のデータを参照するため、そのマスターデータの削除はしたくない場合に、マスター検索表示区分を「表示しない」に変更します。

業務改善の ミカタ

マスター検索表示区分はマスタータイプの画面に追加できる項目です。(補助マスターの保守画面では自動で利用可) マスター検索の画面で、任意のマスターデータを選択不可にしたい場合に使用します。

【マスター検索表示区分の運用例】

サンプルアプリ「契約管理」の契約情報では担当者をマスター検索で選択できますが、退職した担当者のマスター検索表示区分を「表示しない」に変更すると、マスター検索の画面に表示しません。そのため契約情報の新規登録で、退職者を選択するミスを防止できます。一方、過去の契約情報を参照するとその担当者のマスターデータを削除してないため、当時の担当者等、契約当時の内容を確認できます。

実際に確認してみよう！

STEP 1

担当者マスターのデータ参照と契約情報の登録: 契約情報の入力画面

- * ここでは、サンプルアプリ「契約管理」の契約情報のブラウザ用画面で説明します。
- * あらかじめ、QuickCreatorでサンプルアプリ「契約管理」をインポートしておいてください。
- * またSTEP1を開始する前に、担当者マスターのサンプルデータを登録しておいてください。

① 担当者のマスター検索画面を起動

② 担当者をマスターデータの一覧から選択

* 契約情報の担当者を一覧から選択できます。
* ここでは例として、担当者[上村 浩]を選択し、契約情報の登録作業を実行してください。

STEP 2

マスター検索表示区分の変更:担当者マスターの入力画面

* ここでは、サンプルアプリ「契約管理」の担当者マスターのブラウザ用画面で説明します。

担当者マスター

処理モード
○登録 ○修正 ○削除

担当者コード 000002 対象変更

担当者名 上村 浩

フリガナ ウェムラ ヒロシ

1 マスター検索表示区分 1:表示しない

2 実行

クリア

①マスター検索表示区分を[表示しない]に変更

* ここでは例として、担当者[上村 浩]をマスター検索の対象から外すため、[1:表示しない]に変更します。

* なお、補助マスターのデータの場合も、マスター保守画面において、同様に[1:表示しない]へ変更できます。

②[実行]をクリックして変更した内容を保存

STEP 3

マスター表示区分変更後の担当者マスターのデータ参照:契約情報の入力画面

* ここでは、サンプルアプリ「契約管理」の契約情報のブラウザ用画面で説明します。

* STEP2で、マスター検索表示区分を[1:表示しない]に変更した担当者の契約情報を参照します。

契約情報

処理モード
○登録 ○修正 ○削除

契約番号 1

次データ 前データ 最終データ データ検索

顧客コード 00000001 ニシマキ事務機

契約形態コード 000001 ハード保守

契約分類コード 000002 サーバー運用保守

契約名称 サーバー運用保守

契約番号 XX-2023080901

契約日 2023 年 8 月 9 日

契約開始日 2023 年 8 月 14 日

契約終了日 2024 年 8 月 30 日

契約金額 600,000 円

担当者コード 000002 上村 浩

担当者マスター検索

担当者コード 000001 木村 洋一

担当者コード 000003 青山 太郎

担当者コード 000004 佐藤 花子

1 担当者コード 000002 上村 浩

2 担当者マスター検索

①マスター検索表示区分を[1:表示しない]に変更した[上村 浩]は過去に登録した契約情報においては、引き続き表示

* 当時の契約情報の内容を、引き続き確認することができます。

②マスター検索表示区分を[1:表示しない]に変更した[上村 浩]は、担当者マスター検索の画面上では非表示

* 不要な担当者を選択するミスを防止できます。